

# 防災セミナーのご案内

災害発生時に直面する高齢者介護施設特有のリスクに対して どんな対策でヘッジしたらよいか！

## 高齢者介護施設における “実践的”災害対策講座(第11回)

### ■火災／水害／地震／津波・・・高齢者施設が直面する自然災害■

- ・ご利用者を守り、職員を守り、事業を守る事前の備えとは？
- ・その直前、その時、その瞬間、どう動くべきか？

高齢化が進む私たちの社会において、高齢者介護施設は大きな使命と責任を担っております。その一方で様々な災害に対しては、高齢者はどうしても受け身にならざるを得ず、高齢者介護施設においてもその特性ゆえに効果的な対策講じきれないのが実情です。

しかし、今や自然災害といえども無防備では済まされない時代になってきています。

本セミナーでは、『実効性のない形式的な対策』から脱却した、ここでしか聞けないリアルの高い実用的な対策をわかりやすくお伝え致します。

昨年10月の『現実直視シリーズ』開講以降、阪神間で131施設の皆様方にご参加頂いている災害対策講座。今回は、火災・水害・地震・津波を網羅した講座になっております。事業責任者様の積極的なご参加をお奨め致します。

- 日 時 : 2011年2月28日(月) 受付開始 13:00～  
講 座 13:30～16:40
- 場 所 : 新大阪ワシントンホテルプラザ 2F 蘭の間  
大阪府大阪市淀川区西中島5-5-15 (地下鉄・JR『新大阪』駅下車 徒歩5分)
- 参加費 : セミナー 5,000円  
テキスト 10,000円 ※テキストはセミナー受講後にご購入頂くことも可能です。  
セミナー内容についての事前のお問い合わせも承ります。
- 申込み : 2011年2月27日(日)までにFAXにてお申し込みください。
- 主 催 : 株式会社ヒューマンアイネット総研  
お問い合わせ (担当 吉田)  
☎06-6155-8500 (直通 090-6232-0595)
- 講 師 : フォックスブルー株式会社  
代表取締役 早川 英樹

お申し込み方法 下記にご記入のうえFAX頂けますようお願いいたします。

### 【高齢者介護施設における“実践的”災害対策講座】

#### セミナー参加申込書

FAX : 06 - 6535 - 0330

貴法人名			
貴事業所名			
お電話番号			
ご参加者氏名			
役職			
ご参加の内容 (いずれかに“○”をお付け下さい)	セミナーのみ		セミナー+テキスト

## ■ プログラム概要 ■

**13:30～15:00**

### I.組織としての災害対策への取り組み方

～組織としての考え方や、指揮系統、体制について解説します～

1. 阪神淡路大震災以降16年間で変わったこと
2. 災害発生時に組織としてとるべき姿勢と負うべき責務とは？
3. より効果的で無駄のない指揮系統とは？

### II.想定される災害ごとの対応の違い

～それぞれ異なる特性と対応の違い、対策のキーポイントについて解説します～

### III.火災対策への取り組み

～火事災害に関する情報及び知識を整理し、効果的な火災対策について解説します～

1. 火事災害に対する対応の流れの読み解き方
2. 火災による被害を限りなく0%にするための対策とキーポイント
  - 法令を遵守することの意味と目的
  - 火災に備えて施設職員が事前にやっておくべき重要なこととは？
  - 火災発生時に施設職員が最初に取りべき行動と、職員が戦うべき本当の相手とは？  
～初期消火と消防署への通報・・・どちらを優先するか？～  
～日勤帯と夜勤帯での対応の違いは？～
3. 過去の高齢者介護施設での火災事例に基づいた、対策の実効性の検証と確認
4. 火災想定訓練で行っておくべきこと

### IV.水害対策への取り組み

～取り組み方と対策が判りにくい水害のリスクを読み解き、現実的な対策について解説します～

1. 水害に対する対応の流れの読み解き方
  - 水害リスクの特徴と、それに応じた対策とキーポイント
2. 水害に備えて施設及び施設職員が事前にやっておくべき最重要事項とは？
3. 水害対策として、施設職員が取るべきもっとも重要な行動とその前提とは？
4. 水害想定訓練で行っておくべきこと

**15:00～15:20**

(休憩・個別相談)

**15:20～16:40**

### V.地震災害への取り組み

～地震災害の流れを読み解き、より実用的具体的な対策について分かり易く整理して解説します～

1. なぜ今、地震の話をするのか？
2. 地震災害に対する対応の流れの読み解き方
3. 地震災害から生き残るための対策
  - 低コストで実効的・実用的な『今日からできる対策』とは？
  - ハード面に頼らないソフト面での安全確保のコツ
  - 職員を守るための対策
  - 地震想定訓練 (より現実的な訓練)
4. 地震災害から生き残るための対策
  - 備蓄品 (何をどれだけ備蓄したらよいか？阪神淡路大震災・新潟中越地震の経験から)
  - 補給
    - ～確保すべき補給路と『相互支援協定』の作り方と協定書のひな形 及び 協定の運用の仕方～
  - 人員確保 (地震災害発生時、どれだけ職員が出勤してくれるか？)
    - ～職員参集の基準の内容と参集の基準を作る際の注意点・問題点～
    - ～災害発生時の職員動員率(出勤率)向上～
    - ～ボランティアの受け入れのための準備と手順～
  - 災害発生時の情報の受信・発信(連絡)
    - ～阪神淡路大震災・新潟中越地震の際に現場で起こったこと～
    - ～受信/発信すべき情報の内容・手段・優先順位～
    - ～情報を発信するための注意点と問題点・対応策～
5. 地震災害発生時の施設幹部と職員の動き方
  - 災害発生時～発生直後～発生後3時間～発生後3日～7日間の時間の流れにそった法人(施設)幹部と施設職員の動き方
6. 各関係先への災害対策の周知(周知の対象・周知の内容・周知の方法)
7. 各関係先(行政機関/周辺施設/医療施設/企業/周辺地域/民生委員との連携の目的と連携の取り方)
8. 各関係先との相互支援協定書の作り方(含 ひな形)と運用の仕方
9. 災害発生時により多くの職員に出勤してもらう(=職員動員率向上の)ための具体的な方策とは？